2019年度後期 学群教育改善計画

学群（学部）名	基盤教育群
学群（学部）長名	川村 保

1－(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	履修者数が適正な数を超えている授業が散見された。
	理由	時間割の編成等、授業内容以外の要因に左右されていることが考えられる。一方、学群により必修科目と特定の科目を指定していることも要因と考えられる。
②	課題	授業により、事前事後学習時間にバラツキがあった。
	理由	以前と比べ、事前事後学習時間の改善が見られた科目がある一方、依然として改善されない科目もあったことから、バラツキが顕著になった。
③	課題	【継続】学習環境の整備が、まだ十分に整備されていない。
	理由	・体育館の整備状況は未だに問題があり、学生の事故に繋がる恐れがある。 ・アクティブラーニングの実施に支障がある教室がある。

1－(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	・履修者数の多かった科目に関しては、来年度からのカリキュラム改訂を機に、時間割編成を考慮し履修状況に変化がみられるか検討する。 ・学群ごとで、特定の基盤教育群科目の内、特定科目を必修科目として指定しているか確認し、他の科目で代替できるか等も視野に入れ、履修者の数を平準化するよう努力する。
②	・教員間で情報共有ができる環境を作り、ノウハウを共有できるようにする。 ・FD等を通じて、事前事後学習を学生へ促す取り組みを考える機会を提供する。 ・来年度からのカリキュラム改訂へ向けて、学力別のクラス編成の可能性も検討し、それによって事前事後学習の出し方も検討するようにする。
③	・現在、策定作業に取り掛かっている第3期中期計画の中で、体育館の施設等の整備や各教室の備品の整備に実現を図る。 ・引き続き、時間割編成の中で科目の特性に応じて適切な教室への配置を図るように調整していく。 ・大和キャンパスに関しては、デザイン棟の建築により本部棟で教室用に使用できる空間が拡充したため、本格的な調整をしていく。

2－(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。
小テスト、レポートなどの提出物に対して、学生へのフィードバックをすることにより、個々の学生に対して適切な指導が行えている。また、学生にとっても教員からの直接個別指導は、授業をより真剣に取り組むきっかけになっている。時間と体力が必要ではあるため、大規模な授業には不向きであることを付記する。
2－(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。
履修者数や科目によって異なるが、効果のある取り組みについては、教員会議やFD、或いは今後カリキュラム改訂もあることから、教員会議のような体制を立ち上げ、情報共有することで教育改善につなげていく。

2019年度後期　学群教育改善計画

学群（学部）名	看護学群
学群（学部）長名	高橋和子

1－(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について３つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	「継続」　「事前・事後学修」について、講義内での説明や資料配布、課題提示を行うなど、実施を促す工夫をしている科目もあるが、全体的には授業時間以外の学修時間が不足している科目が多く、改善が求められる。
	理由	教員側は、事前・事後学修を促す周知や工夫をしているものの、教員が期待した成果に至っていない。
②	課題	科目運営について、講義室環境の不備や、必修科目では、学生数に対して講義室が狭いなどの状況により、効果的授業が展開できていない科目があり、環境改善が求められる。
	理由	アクティブラーニングを取り入れた授業が推奨されているが、低学年になるほど、学生数が多くなり、100名を超える場合に、授業中に、グループで話し合いを行える広さの講義室が限られる。
③	課題	「継続」学生の捉えている到達目標に対する到達度と、成績評価の結果を照合しながら、評価基準の明確化を図り、ルーブリックによる評価方法を確立する必要がある。
	理由	到達目標に対する達成度を公平に、適切なレベルで評価する方法としてルーブリックによる評価を確立することで、科目による成績の偏り等、解消することが必要である。

1－(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	・「継続」　事前・事後学修については、引き続き、必要な学修内容を具合的に示したり、資料配布や課題提示を行うなど、学修を促す工夫を継続する。また、促しのみならず、主体的な学修の習慣が身に付くよう、繰り返し学修に適した教材や学習環境を検討する。事前・事後学修の時間が確保できている科目において、どのような学修を行っているのか情報を共有し、ＦＤ等を通して、効果的な方策を検討する。
②	・学生数や授業内容にあった講義室の使用を考慮するとともに、期待する学修効果が想定される学修システム等の導入を検討する。また、令和４年度から、保健師助産師看護師学校指定規則の変更により、新カリキュラムによる教育が開始される。そのため、不具合があったり、改善することにより学修効果の向上が期待できる学修環境を把握し、修繕を行うことで、学習環境を整備する。
③	・「継続」　全学年の科目でルーブリックを活用し、到達目標に対する評価の公平性と妥当性を確認し、ＦＤ等を通して、評価基準の明確化を図ることで、ルーブリックの精度を上げる。

2－(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。
・事例について自分たちが立案した看護計画でロールプレイを行い、それを撮影した動画を用いて全体でデブリーフィングを行うというプログラムを実施した。学生の主体性や創造性を発揮する良い機会となった。
2－(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。
・教員会議や他の学群の会議等で紹介し、情報を共有する。 ・看護学群のＦＤ等を通して、学修意欲の向上につながる、事前・事後学修においても活用できる教材の作成事例、これまであまり用いられていなかった学修システム等の活用事例等を共有し、新たな学修方法、学修スタイルの導入を図る。

2019年度後期 学群教育改善計画

学群（学部）名	事業構想学群
学群（学部）長名	中田千彦

1－(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	大教室での授業に際し、全学生に課する事前、事後学習を含め、十分な教育効果を挙げられているかについて検討する必要がある。
	理由	多人数の履修者がいる科目の担当教員から学習効果を測定する方法に課題があると感じる意見が少数ではあるが挙げられている。
②	課題	実学教育プログラムの充実に向けたさらなる考察が必要。
	理由	実学教育プログラムに関しては、専任教員の実務者としての知見を教育に展開する方法が様々に試行錯誤されている様子うかがえるが、現時点でその手法は開発途上の部分があると思われる記述が見られた。
③	課題	外部講師の活用の意義や、その意味について、十分に共有がされていない。
	理由	客員教授などの称号もある魅力的な外部講師の招聘が数多く行われ教育の充実に貢献しているが、その効果が学内の学習の充実に限定されてしまうケースが少なくない。

1－(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。	
①	学群全体の科目について、多人数の授業運営において教育効果を見極める方法の洗練が必要と考えられるが、2020年度に導入した遠隔授業システムとポータルサービスなどを融合することによって、オンデマンドの教材の活用、反転授業の実施検討、新たな学習成果の評価方法の開発、導入などによって、従前の検討、改善方法にはない教育プログラムの展開が期待できる。
②	2020年度に実施された実学教育プログラムとして認められる科目の要件の再確認の中で、複数教員が担当する科目の全ての教員が実学教員であることが定義されたが、実学教育そのものが全て実務に従事する教員による実施を前提とすると、大学教育の中での授業プログラムの多様性や多面性を肯定しにくくなる可能性も感じられる。科目の定義に限らず、学生に充実した授業を提供することが学群の使命であると考えているので、定義そのものにこだわる必要がないと考えるが、実学教育プログラムとうたう限りにおいては、その意味、意義について再確認、再検証は必要であると感じた。
③	外部講師の招聘は、当然ながら本学の学生の学習の充実に資するものとして行われることが基本であるが、学外にその情報を発信、授業の公開などをすることで、本学の教育力、教育内容の充実を広く分かち合える貴重な機会と考えられる。学群単位でプロモーションをかけることもあるが、科目担当の教員個人にその役割を担っていただかなければならないことも多く、残念ながら効率的に情報発信や公開をすることに困難が生じることも少なくない。折角の機会であることから、本学の教育力、教育内容のアピールにつながる手段を考えられないか、是非広報担当とも検討を進めて行きたい。

2－(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。
・（大教室での講義において） TAの活用も含め，授業中並びに事後の指導を充実させたい。 ・学生からの要望（配布資料、投影画像の内容など）に対してきめ細かく臨機応変に対応し授業内容を改善。 ・eラーニングの活用に積極的に取り組む姿勢が多く見られた。
2－(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。
・（各授業ごとに課する筆記課題において）短期的な記憶に頼るような学修とならないよう課題の出し方に工夫をするなどの改善が示され十分な理解を深めるための改善が行われている。

2019年度後期 学群教育改善計画

学群（学部）名	食産業学群
学群（学部）長名	西川正純

1－(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について３つ挙げてください。
※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修について各教員から学修すべきキーワードや課題等を提示するなど意識を促してはいるものの時間の確保が出来ていない状況が伺える。一方、実験・実習科目においては、毎回レポート作成が必須となっていることから時間は確保できているが、逆に時間が掛かり過ぎている傾向が見受けられる。
	理由	予習・復習をやらなくても授業に支障がないと考えている学生がいること、アルバイト時間が過多になっていることも原因である。2年次学生については、実験・実習のレポート課題が多すぎて、他の科目の予習・復習に時間が割けないことも原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）で履修者数が多い授業では、理解度の低い学生が存在している。学生が思う目標到達度と教員が想定している到達度の間に差があるとの意見もあり、改善すべき課題であると考える。
	理由	事前・事後学修の少なさに加えて、履修者数が多い大講義室での講義では集中力が散漫となること、実験・実習では目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性も考えられる。
③	課題	実験・実習科目において、履修者が増加（偏り）した科目分野がでてきたこと、それに伴い実験器具、測定機器等の実験機材が不足し、学生間の学修効果にばらつきが認められる。
	理由	食資源開発学類において、学生のコース選択にかなり偏りが出てきていることが主原因である。また、少ない実験機材を利用するための順番待ちや待ち時間によって集中力が散漫となっていること、グループの中で作業をやる学生とやらない学生が存在していることも一因と推察される。

1－(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題については継続課題であり、各教員も積極的に、宿題、小レポート、小テスト、グループワーク、練習問題等、事前・事後学修を促進する取り組みを行っており、履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できる LTD（Learning Through Discussion）を取り入れるなどして、辛抱強く継続していくしかない。ただし、本年度はコロナ禍の影響で遠隔授業を中心に進めていることから、より一層事前・事後学修を促すよう８月の教員会議・教授会、学類（学科）会議を通じて、進めていきたい。その一方、実験・実習科目の毎回レポート課題については、省くことは困難なので、2年次に集中している実験・実習科目の各年次への分散化を図るよう基盤教育も含めてカリキュラム改編案に盛り込むこととしたい。
②	本課題も継続課題なので、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、 LTD、ピアサポートの実施・活用を徹底させる。さらに、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り学修の向上をお願いする。また、履修者の多い科目についての対応としてＴＡの増員や2グループに分けての講義や実験・実習などを検討すること、各科目の到達目標について再検討の依頼など、８月の教員会議・教授会、学類（学科）会議で情報の共有化と改善を図る。
③	実験・実習科目における学生間の学修効果にばらつきについては、ピペットマン等の実験器具を 3 月に履修者数整備することができたので、改善の程度を本年度検証する（コロナ禍の影響で学生間の距離を適切に保ちながらの実施となるので、どこまで検証できるかは不透明ではあるが）。また、食資源開発学類におけるコース選択の学生数の偏りについては、コース制の見直しも含めてカリキュラム改編案に盛り込むこととしたい。

2－(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例としては、「資料のわかりやすさ、小テストが復習等に役立った」、「外部講師を招いての講義で、食品業界の実際を知るのに役立った」、「ポイントをまとめてあるのは、復習の時にも理解を助けてくれた。」などがあり、授業改善の良い事例としては、「クリッカーを使ったアクティブラーニングを実施する」、「理解度を向上させるような学習法・興味を持つようなトピックスなどを交えた講義法」、「知識だけでない総合力が見につくようなレポート課題を課す」などであった。

2－(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教育改善計画としては、コロナ禍ではあるが昨年に引き続き、自主的な学習に期待してもなかなか取り組めない学生向けに、事前に学ぶポイントを伝え授業に臨ませる、配布される資料の読み方、使い方について指導し、読んだかどうかの確認等を行う。さらに、双方向型授業、アクティブラーニング授業、授業外学修の定着に向けた講習会を学群・研究科の教務委員会で年度内にスケジュール化して実現する。